

---

# 僕と精霊の・・・冒険？

春夏秋冬

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

僕と精霊の・・・冒険？

### 【Nコード】

N2359BA

### 【作者名】

春夏秋冬

### 【あらすじ】

なんか時空の裂け目に入ってしまったらしい。  
着いた先はなんと異世界！もしかしたら宇宙のどこかの違う星かもしれないが……。そこには魔法があつて精霊がいた。なんか精霊と契約してしまった。

初めて書くので変なところには目をつぶってください。

## プロローグ（前書き）

初めて書きます。

いろいろ見苦しいところなどあると思います。

温かい目で見守ってください。

## プロローグ

「ここはどこだ・・・」

そんな事をつぶやいて男が起きた。

私はどんだけ寝てるんだと思いつながらその男を見た。

黒髪黒目のその男は身長が高くすらつとしていた。

しかし、弱い感じはせず引き締っていて何らかの運動をしているものだと思われる。

「どういうことだ？俺は確か学校に行くために・・・」

「記憶はある・・・と思う」

聞き取れたのはそれくらいだがいろいろつぶやいている。

そして男は立ち上がり体が思い通りに動くか確認している。

体の確認が終わったのか周りを見ている。

というかいつまで気づかないんだろう。

いい加減気がついて欲しい。

しかし男は、

「うつわどんだけ木でかいんだよ」

「神殿か・・・なんか神々しいな」

「というか腹減ったな・・・」

なんてことをつぶやいている。

その間もきょろきょろうろうろしている。

もうそろそろ声をかけてもいいんじゃないか？  
というかもういいだろ。

よしかけよう。

そう思って口をひらいたところで、

「あのー声をかけたほうがいいですかね・・・」

「・・・・・・・・・・」

という風に声をかけてきたので私は口を開けかけた状態で止まってしまった。

「なんかあまりの状況に頭がついてこなくてですね」

「無視しようと思ったのではなくてですね」

「・・・・・・・・・・」

なんてことを言っているが私は息をおもいつきり吸い込み。

「気付いていたんなら早く声をかけなさいよー！！！！！！」

「声かけてくれないと寂しいでしょうが！ー」

「そもそもねえ・・・・・・・・くどくど」

「くどくどくど」

それから30分くらい怒られました。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2359ba/>

---

僕と精霊の・・・冒険？

2012年1月5日23時46分発行